

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

朝来市長 藤 岡 勇

市町村名 (市町村コード)	朝来市 ( 282251 )	
地域名 (地域内農業集落名)	朝来市生野町口銀谷地域 ( 南真弓区 )	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和7年2月25日 (第6回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。  
 注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

当地区の現状は兼業農家が100%で主に水稻を中心に作付している。各農家は自家用で出荷目的の水稻栽培はほとんどない。  
 現在の課題は設備の老朽(水路、取水口、コンクリート畦畔)があり、維持管理、修繕が必要である。  
 後継者は少ないが10年は現状を維持できると考えている。

(2) 地域における農業の将来の在り方

現状維持で水稻を中心に作付したい。  
 各個人で米を消費するため、できるだけ安全な無農薬に近い水稻栽培にしたい。  
 また、JAたじまが推奨する特産物にも積極的に栽培したい。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	4.35 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	— ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

今後農地活用及び保全管理等で管理していく農地を中心に区域設定を行った。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
圃場整備(40年ほど前)は80%程度であり、特に集積、集団化への取組みは考えていない。
(2)農地中間管理機構の活用方針
小規模農地であり、兼業農家が行っているため、現時点での活用は難しいと考えている。
(3)基盤整備事業への取組方針
個人消費のための農地がほとんどで大型化はないが老朽化した取水口、水路、コンクリート畦畔は修繕が早急に必要である。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
所有している農地は所有したいが農業機械の更新が難しいため、作業委託を行いたい。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
現在でも一部の作業を区内の農業者に委託しているが、今後もこの形態で運営することになる。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

- ① 獣害が増えているため現在ある防止柵の維持管理に努めるとともに、新設箇所の検討を行う。また区内の猟師とも連携し獣害駆除に努める。
- ⑦ 設備の老朽化が進み計画的な修繕及び更新が必要である。